行動する知性。
中央大学

2024 Guide Book

国際情報学部

Faculty of Global Informatics

国際情報学部 iTL Webサイト

中央大学受験生ナビ Connect Web

※本誌に登場する学生の学年は2022年度のものです。　2023年5月発行

ITの世界にはまだ、ルールが足りない。

情報の仕組み × 情報の法学

まだ確立されていない、新しい分野を専門とする学部

iTLは、複雑かつ国際的に広がる情報社会の未来と、課題解決のために、文系的思考、理系的思考の枠を超え、それぞれの専門性を融合する学びにより、社会に受容される情報サービスや情報政策を実現できる人材を養成します。

中央大学国際情報学部は「情報の仕組み」と「情報の法学」を融合した学部です。この「情報」と「法」の複合学部は日本において稀有な存在であり、そのような学部を表現するために"iTL"ということばを生み出しました。

“iTL” stands for “Information Technology & Law”

まさしく「情報の仕組み」と「情報の法学」の融合を指す言葉。情報技術の発展が生み出す大きな波そのものは、しばしばルールや倫理観を持たないもの。これを適切にコントロールし、社会に落とし込むには、法律、ヒトの知恵、教養、秩序が不可欠。

“iTL” stands for “Ichigaya Tamachi Link”

市ヶ谷田町キャンパスは単なるキャンパスではなく、産・官・学をLinkさせる、産官学の拠点となる。そして、iTLに結集した叡智が情報社会を革新させるハブとなる。

“i” stands for “identity”, “idea”, “integration”and “innovation”

「独自性の強いこの学部で、学生・教員が生み出した新たな発想を統合し、革新を起こしていく」そんな学部であり続けることへの期待を込めている。

CONTENTS

P.3 …… iTLとは
P.4 …… 情報と法のこれから
P.6 …… 「情報の仕組み」、「情報の法学」、「情報の国際文化」
P.8 …… カリキュラム
P.10 ……KNOWLEDGE & SKILL
P.12 ……研究テーマ
P.14 …… STUDENTS’ VOICE
P.18 …… 資格試験/海外留学
P.20 ……内定先・進学先紹介
P.22 ……奨学金制度
P.24 ……専任教員紹介
P.28 …… 施設紹介
P.29 …… アクセス
P.30 …… 入試概要
P.31 …… 学部長挨拶

自動運転車が事故を起こしたら誰の責任なのか?車に搭載されたAIの開発者でさえ予見できないような行動をとって事故を起こした場合には、開発者の責任を立証することが難しくなり、誰が責任を負うべきかが不明になってしまう「責任の空白」が生じると指摘されています。

AIの開発・普及が進めば単純事務労働がAIに奪われ、AI搭載ロボットの開発・普及が進めば肉体労働もロボットに奪われるといわれています。そこで生まれる大量の失業者の問題を、社会はどのように解決すべきでしょうか。

人の様々な発言、嗜好、行動をインプットされたAIが、人を「プロファイリング」して、ステレオタイプなレッテルを貼り、ひいては不利益な取り扱いに繋がれば、「個人の尊厳」や「基本的人権」への大きな挑戦となりえます。

ネットワークやAIの発達によって、人間の生活の全てが便利になろうとしている。しかし…

「AIによる作品(絵・小説・音楽)」などには著作権がないため、自由に流用できてしまいます。逆に著作権が認められると、ゆくゆくは「人の創作物」が、莫大に存在する「AIによる作品」と似ているがゆえに著作権侵害となる可能性も出てきます。そうすると人は創作ができなくなるのでしょうか。

AIの発達により、本物と見分けのつかない偽画像・偽映像が出現しています。虚偽かどうかを判断するAIが登場しても、そのAI以上の能力で虚偽が流布されないとも限りません。すると何が真実かが判断できなくなってしまい、人々の選挙行動や意思決定が虚偽情報に左右されるおそれもあります。

スマートフォンとSNSのアプリがあれば、自身の考えを匿名で容易に世界に発信することができますが、その匿名性と容易さゆえに、SNS上での他者とのトラブルや権利の侵害を引き起こす事例が発生することもあります。表現の自由によって人が傷つけられることがあって良いのでしょうか。

髙橋 蓮 4年　私立仙台育英学園高等学校（宮城県）出身

内定先 | 情報系企業

知識ゼロからはじめたプログラミングの授業で自分の「好きなこと」と「やりたいこと」が合致

高校生の頃は将来の進路が定まっていませんでしたが、昔から「ものづくり」が好きだったので、プログラミングを学んでみようと考えてiTLへ。「プログラミング基礎」の授業では、基礎的なプログラミングを、講義だけでなく自分の手でプログラムを書く実践を交えてわかりやすく教えてくれます。課題も楽しく、文系出身の僕でも無理なく楽しく学ぶことができました。その後に出されたゲーム開発の課題にはさらに没頭し、初めて自分の「好きなこと」と「仕事にしたいこと」が合致。以来、授業以外の時間にもゲームについて研究するようになりました。ゲーム制作も手掛ける企業のインターンシップにも挑戦。iTLで学んだ知識・スキルを生かしながら、インターンシップ先でさらに技術力を磨くことができたと思います。ゲームの制作やマーケティングには、技術力だけでなく、語学を始めとするグローバルに通用する教養も必要。自分が制作に携わったゲームを国内外のユーザーの手元に届ける仕事に就けることになり、iTLに入学して本当に良かったと思っています。

「イノベーションによる社会問題の解決」をテーマに学内外での研究を重ねる刺激的な日々

iTLを選んだのは、文系の学生でも情報学を学べるから。興味があるのはイノベーションによる社会問題の解決ですが、新しい技術は社会に利便性をもたらす一方で、これまでは存在しなかった社会的課題を生むこともあります。ゼミでは、AIの導入による新たな社会的課題―法的課題や倫理的課題について研究。OECD（経済協力開発機構）の報告書などを用いて諸外国のAI政策の現状を知り、国ごとの政策や課題の違いを比較したり、ディスカッションしたり。キャンパスを出て、企業の合同研究会に参加して、現場の動向や実際に働いている方々の考えを聞く機会にも恵まれました。また、ゼミ生たちと学会発表に向けて論文を書き上げた経験は、私にとって大きな財産になっています。就職活動で企業の方々と接する機会を経る中で、先進的な情報技術だけではなく、それらの技術が抱える問題点をいかに解決すべきかを研究してきたことの意義を改めて実感しました。

佐々木 彩音 4年　神奈川県立新城高等学校出身

内定先 | SCSK株式会社

「情報の仕組み」、「情報の法学」、「情報の国際文化」を学ぶ。

古賀 由佳子 4年　神奈川県立厚木高等学校出身

内定先 | 神奈川県庁

新しい技術とそれに伴うルールのあり方を法律面、倫理面、技術面から検討する

情報化社会がどんどん進展していく世の中で、新しい技術を適切に運用するには、当然ながら新しいルールが必要です。たとえば自動運転車が一般に解禁されたとして、人間が操作しない自動車が事故を起こした場合、誰の責任になるのか。どんな罰が科されるのか。“今はまだ実用化されていない技術”のためのルールづくりは世界各国共通の課題であり、日本も自国の状況に応じた法整備を進めていくであろうなかで、そうしたルールづくりに携わるのが私の夢です。iTLでは、情報技術をめぐる国内外の法律や倫理について広く学べるのはもちろん、プログラミングの授業などを通じて技術そのものについても知識を深めることができます。法律面や倫理面はもちろんのこと、技術面にも精通した文理横断的な視点を手に入れられるのは、この学部ならではだと日々実感しています。昨今の社会に求められているデジタル化の推進。デジタル化の推進によって誰を幸せにしたいか、真っ先に思い浮かんだのは、地元神奈川県でした。公務員として、広く人々の生活に貢献していきたいです。

iTLで培った多角的な視点と論理的思考力「言葉」の力で人々の心を動かすコピーライターに

高校時代から理系科目が苦手で、このままでは時代に取り残されるという危機意識から「情報の仕組み」と「情報の法学」を学べるiTLに入りました。情報系の授業についていけるか不安でしたが、大学の手厚いサポート体制が心強かったです。理系が不得意だった一方、言葉や広告に興味があったので、2年の後期からは社会学や心理学について研究するゼミへ。多様なテーマについて調べて発表するのを繰り返すうちに、ジェンダー問題に興味をもつようになりました。「男性は仕事、女性は家庭」といった性別役割分担意識に無自覚な人たちに気づいてもらうにはどうすればいいかと考え、「女性らしさや男性らしさではなく、自分らしさを尊重しよう」というメッセージを込めた短い映像制作にも取り組み、卒業論文では、デート代のいわゆる「おごり・割り勘論争」に焦点を当て、ジェンダー・ステレオタイプを探る論文を執筆しました。就職活動では「言葉」を扱う職種を中心にエントリー、コピーライター職として内定をいただきました。iTLで培った多角的な視点と論理的思考力を生かして、顧客の課題を「言葉」の力で解決に導ける人材として活躍していきたいです。

遠藤 朱音 4年　千葉県立幕張総合高等学校出身

内定先 | エン・ジャパン株式会社

国際情報学部 独自コンテンツ「Society5.0時代の学び」

「Society5.0時代の学び」。教員は何を思い、学生は何を学んでいるのか。それぞれの立場からお話しします。

【CHUO 8 STORIES】国際情報学部

1人の在学生の大学生活を通して、中央大学国際情報学部の学生が将来の目標に向かって意欲的に学び、さまざまな経験や人との出会いにより成長していく姿を映像にしたプロモーションムービーです。

CURRICULUM

グローバルな情報社会を牽引するための能力が身につくバランスの取れたカリキュラムを構築。

Pick Up Curriculum!

小久保 凜　3年
大阪教育大学附属池田高等学校（大阪府）出身

深く知る一歩「オブジェクト指向プログラミング」

技術者をめざす人には「オブジェクト指向プログラミング」がおすすめ。プログラミングの基礎は1年次に履修しますが、そこで学べるのは、たとえばプログラムを使って簡単な計算をするといった基礎的な内容が中心。一方、2年次からのオブジェクト指向を学ぶと、いま世の中で動いているシステムのプログラムに近いものが書けるようになります。実際、私のインターンシップ先の企業でも、社内システムを構築する際にオブジェクト指向の考え方がとても役に立ちました。また、情報法の科目では「刑事法（サイバー犯罪の刑事規制）」に注目。授業内容がおもしろいだけでなく、警視庁のサイバーセキュリティ対策本部の方や弁理士の方の講演もあり、とても貴重なエピソードを聞くことができます。

【2年次前期のスケジュール】

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1限	ー	ー	情報英語Ⅰ	ー	ー
2限	ー	ー	法情報学	ー	情報セキュリティ論
3限	ー	情報理論	ー	民事法（情報不法行為法）	ー
4限	情報ネットワーク論	システム開発論	オブジェクト指向プログラミング	コンピュータアーキテクチャ	情報プライバシー論
5限	ー	ー	ー	ー	ー

Pick Up Curriculum!

知的好奇心が刺激される「AI・ロボット法」

ものづくりが好きなら、「情報ネットワーク論」は外せません。ウェブサイトを作成する際に用いるHTMLや、ウェブサイトのスタイルを指定するCSSを使って、自分で実際に手を動かしながらウェブサイトの仕組みを学ぶことができます。僕の場合、最終課題では自分の好きなサッカーチームのウェブサイトをつくったのですが、まるで自転車のパーツを組み合わせていくように、頭の中でイメージしたウェブサイトが少しずつ完成していく過程に興奮しました。あと、AIやロボットをめぐる法律に興味がある人は「AI・ロボット法」。サイボーグやアンドロイドが出てくる名作SF映画を見ながら、「この描写が現実になったら法的にはどうか」といった思考実験をするなど、知的好奇心が刺激される科目です。

【2年次後期のスケジュール】

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1限	ー	ー	情報英語Ⅱ	ー	ー
2限	行政法（情報行政法）	ー	ー	AI・ロボット法	ー
3限	ー	ー	ー	刑事法（サイバー犯罪の刑事規制）	ー
4限	ー	応用倫理学	ー	特殊講義（ドキュメンタリー論）	システムマネジメント
5限	国際情報演習Ⅰ	ー	文学	ー	ー

野崎 人音　3年
東京都立桜修館中等教育学校出身

国際情報学部カリキュラム表

科目群			1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3・4年次 前期	3・4年次 後期	卒業に必要な単位数
専門科目群	情報基盤		◎国際情報概論 ◎基礎情報学 プログラミングのための数学 ◎インターネット概論 ◎情報フルエンシー	◎国際情報史 ◎プログラミング基礎 統計学 データサイエンス基礎 ◎情報倫理 メディア論	◎情報理論 オブジェクト指向プログラミング コンピュータアーキテクチャ 情報ネットワーク論 情報社会と社会的包摂 システム開発論 情報セキュリティ論	問題解決とアルゴリズム OSとハードウェア リスクコミュニケーション 意思決定論 システムマネジメント	データベース論 システムとソフトウェア SNSとコミュニケーション 情報産業における人的資源管理論 ICTケーススタディ（ネットワーク構築） セキュリティマネジメント	データマイニングとAI	30単位
専門科目群	情報法		◎法学概論 ◎民事法（総則と情報契約法）	◎情報政策概論 ◎情報と憲法 ◎刑事法（概論） ◎情報法	国際規約と国際標準化団体 ◎民事法（情報不法行為法） ◎情報プライバシー権法 ◎AI・ロボット法 法情報学	情報政策ワークショップ ◎行政法（情報行政法） ◎刑事法（サイバー犯罪の刑事規制） 法と経済学	ICTビジネスと公共政策 情報と国家安全保障 情報政策事例研究 競争法（情報競争法） 民事法（情報財産権法） 企業と情報法 国際私法 刑事法（サイバーセキュリティと刑事法） 情報判例研究A 情報判例研究B	外交政策論 情報通信法 著作権実務 消費者保護法 電子商取引法 刑事法（デジタル・フォレンジック） 国際契約の起案学 法交渉学 情報判例研究C	30単位
専門科目群	関連科目	情報発展					イノベーションと技術 インターフェースデザインとユーザ体験 システムコンサルティング技法 情報戦略論 システム監査論	プロジェクトマネジメント 技術戦略論 企業の情報戦略とEA デジタルブランディング ITILとサービスマネジメント ICTケーススタディ（セキュリティインシデント）	8単位
専門科目群	関連科目	情報実践			Practical English for Informatics English for Current Topics 比較メディア論 特殊講義（ドキュメンタリー論）	Technical Writing 情報心理学 特殊講義（ジャーナリズム論） 特殊講義（eスポーツ）	デジタルメディアとコンテンツ 情報サービスとゲーミフィケーション 金融情報システム論 情報と外交 情報と国際政治 情報教育論 ICTケーススタディ（パケットキャプチャ） 特殊講義（クラウドコンピューティング） 特殊講義（デジタルパブリッシング） 特殊講義（パブリックスピーキングと自己表現）	広告論 パブリックコミュニケーション 現代視覚文化論 ネットビジネスとマネタイズ 情報と言語 特殊講義（情報通信とDX） 特殊講義（ブロックチェーンとWeb3）	8単位
演習科目群			◎基礎演習			◎国際情報演習Ⅰ	◎国際情報演習Ⅱ ◎国際情報演習Ⅳ	◎国際情報演習Ⅲ ◎国際情報演習Ⅴ 卒業論文 卒業制作	16単位
グローバル・教養科目群	グローバル		◎統合英語Ⅰ	◎統合英語Ⅱ	◎情報英語Ⅰ	◎情報英語Ⅱ			8単位
グローバル・教養科目群	グローバル		◎哲学	◎倫理学 宗教学	比較思想論	応用倫理学 国際文化論	比較文明論 比較宗教論 異文化間コミュニケーション論 ダイバシティ論 国際関係論	宗教とメディア インターネット文化とサブカルチャー 各国ICT事情	8単位
グローバル・教養科目群	グローバル				2・3・4年次 前期			2・3・4年 後期	8単位
グローバル・教養科目群	グローバル				ICT留学			国際ICTインターンシップ	8単位
グローバル・教養科目群	教養		1年次 前期				3・4年次		8単位
グローバル・教養科目群	教養		学問最前線				学際最前線		8単位
グローバル・教養科目群	教養		1・2・3・4年次 前期				1・2・3・4年次 後期		8単位
グローバル・教養科目群	教養		政治入門	心理学	環境科学	歴史入門	生命科学	経済入門	文学	健康・スポーツ	社会入門	物質科学	8単位

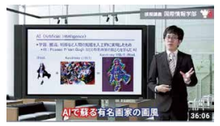
◎は必修科目です。「卒業論文」・「卒業制作」は4単位、それ以外の科目は2単位です。

※2023年度の内容です。科目や開講学期については変更される場合があります。

WEBで公開中！いますぐチェック！　国際情報学部模擬授業

「AI、IoT、データサイエンスが拓く未来」

私たちの生活には情報技術を使ったサービス・製品が溢れています。今や誰もが「情報の仕組み」を学ばなければならない時代です。情報技術がどのように社会に変革をもたらしているのか解説します。



「ブロックチェーンの技術」

「ブロックチェーン」はルパンの風船？元のデータから要約データを特殊な計算によって導く「ハッシュ」とともに、「ブロックチェーン」の仕組みを解説していきます。

「デジタル情報と法律」

CGが発達した今、写真がネッシー実在の証拠になるでしょうか。法律も情報技術に追いつかなければなりません。iTLの「情報の法学」の一端をご覧いただきます。

KNOWLEDGE & SKILL

iTLだから身につく、情報社会で活躍するための知識とスキル。

大学での研究活動の基礎を学ぶ１年生の「基礎演習」

1年次前期に履修する「基礎演習」では、レポートの書き方、プレゼンやディスカッションの方法、文献や書籍の探し方等、iTLで４年間の授業を履修し、研究活動を進めていくのに必要な基礎力を養います。担当教員1人に対して、学生は10人未満の少人数制で実施されます。

複合的・専門的に学ぶ２年生からの「国際情報演習」（ゼミ）

2年次後期からは専門性を高める「国際情報演習」いわゆるゼミが始まります。学生自身がiTLならではのテーマを設定し、調査・発表・議論を繰り返していくことで、講義で得た「情報の仕組み」「情報の法学」「情報の国際文化」の知識を発展させ、「卒業論文」や「卒業制作」に昇華させていきます。

国際社会の第一線で活躍する講師陣による授業

iTLの授業では、大学の教員だけでなく、各分野の最前線で活躍する実務家の方々をゲストスピーカーとして積極的に招へいしています。企業や官公庁で働く方々のお話を聞けるので、そこで吸収した知識は就職活動にも役立ちます。

［2022年度ゲストスピーカーの一例］

日本マイクロソフト／総務省／アクセンチュア／トヨタ自動車／アマゾンウェブサービスジャパン／野村総合研究所／三菱総合研究所／横浜市役所／文部科学省／メルカリ／ NTTデータ／カカクコム／楽天モバイル／博報堂DYホールディングス／警視庁／日本放送協会／Zホールディングス／情報通信総合研究所

PC初心者でも安心。基礎から学べる「プログラミング」

iTLではプログラミングが必修ですが、入学前までにプログラミングやPC操作スキルを身につけておく必要はありません。iTLの先輩たちも、PC初心者からプログラミングの技術を身につけています。

BYOD：Bring Your Own Device

iTLの学生は、各自が所有するPCを持参して授業に臨みます。学内はWi-Fi環境が整っているので、いつでもどこでもPCで学修を進めることができます。授業に必要なソフトウェアは大学から配布されます。

オンライン授業の活用

Covid-19は、集合・対面型授業の実施に大きな支障を来しましたが、オンライン授業システム利用の日常化というメリットももたらしました。Covid-19の収束後も、授業内における国内外の有識者による講演の機会は続くでしょう。

RESEARCH THEME

「情報」と「法」それぞれからのアプローチ。学際的な学部だからできる多様な研究テーマ。

Theme1
音声認識/合成技術による講義動画の吹替
佐藤 泰基 3年
神奈川県立湘南高等学校出身

Theme3
ネット上での発信者の責任
小塚 わこ 3年
私立札幌大谷高等学校(北海道)出身

Theme6
製造物責任の日米比較
成田 蘭乃 3年
私立光塩女子学院高等科(東京都)出身

Theme7
サイバー犯罪とリモートアクセス捜査
長谷川 桂司 3年
私立茨城高等学校(茨城県)出身

Theme8
スマートビルシステムのクラウド制御
植松 万理 3年
埼玉県立所沢北高等学校出身

Theme2
SNS投稿における絵文字の効果
松岡 愛莉 3年
私立中央大学高等学校(東京都)出身

Theme4
フェイクニュースにおけるファクトチェックの在り方
上原 志織 3年
私立沖縄尚学高等学校(沖縄県)出身

Theme5
楽器の練習支援アプリの開発
島田 裕登 3年
私立敬愛学園高等学校(千葉県)出身

Others Theme

■ターゲット層とWebデザインの相関関係　■個人情報保護ゲーム制作　■SNSにおけるトレンドの勢い分析
■人工知能と著作権　■VR英語レッスンの効果と授業デザイン　■画像認識による現在地の割り出し　など

REPORT 全ゼミが集まる合同発表を実施

2022年11月30日(水)、3年次後期「国際情報演習III」を履修している学生による「国際情報演習III合同発表会」が国際情報学部市ヶ谷田町キャンパスにおいて開催されました。本発表会の狙いは、異なる分野のテーマを扱う他のゼミの研究内容を相互に学び、自身の研究に生かすこと。全20ゼミは2つのグループに分かれ、それぞれ大教室で学修・研究の成果を発表し、質疑応答では教員および他学生からさまざまな意見や感想の声があがりました。この貴重なアウトプットの場を通して自身の研究に対するモチベーションを高めた学生たちは、今回の発表会で得た示唆を4年次後期に履修する「卒業論文」「卒業制作」に生かしていくこととなります。

なお、国際情報学部では、全学生が2年次後期から「国際情報演習」を必修科目として履修します。「国際情報演習」は、1年次から積み上げてきた「情報の仕組み」「情報の法学」「情報の国際文化」の理論をもとに、ゼミ内あるいはゼミの垣根を越えて議論や実習を重ねることで、より社会との接続性の強い実践的な知識

の吸収やその成果をアウトプットすることを目的とした科目です。「卒業論文」「卒業制作」で、研究成果を論文やアプリケーションプログラム、情報サービス、デジタルコンテンツなどにまとめ上げるためには、この「国際情報演習」で培う学問的な知見が土台となります。

STUDENTS' VOICE

各分野の基礎から最新の動向まで学び、新時代のリーダーとなるための土台がここにある。

VOICE 01

栗原 瑠菜 2年

埼玉県立浦和第一女子高等学校出身

情報と法学、どちらに興味がある？

私たちは幼い頃からインターネットが生活の一部だった世代。高校生のときにSNSにおける誹謗中傷をはじめ、ネットで起こる問題や個人情報の扱い方に興味を持ち、情報系の勉強がしたくてiTLを選びました。入学前にはプログラミングなどザ・情報系の授業が多いイメージでしたが、実際に入学してみると法学の基礎を勉強する科目が予想より多かった。最初は少し苦労したものの、学習していくうちに法律の奥深さに触れ、自分でも意外なことにもっと法律を学びたいと思うようになったんです。ゼミも情報化の発展によって生じる法的な問題を研究するゼミを選びました。

ゼミではどんなことを研究してる？

AIが自動生成した画像やイラストの著作権について研究しています。最近はSNSなどでもAIが自動的に生成した画像を見かける機会が増えましたが、その画像の著作権はだれのものなのか――というより、そもそもAIがつくった作品に著作権は発生するのか。日本の著作権法では、著作権が発生する「著作物」は「思想又は感情を創作的に表現したもの」と定義されています。いまのところAIに感情や思想はありませんから、AIが自動生成した作品には著作権が発生しないというのが多くの専門家の見解ですが、こうした研究を進めるには著作権法の知識も必要になってきますよね。著作権に関する過去の判例も参考に、論点を絞って整理していきたいなと。先生のフィードバックを受けながら知見を深められる刺激的な日々に幸せを感じています。

今後の目標、将来の夢は？

当面の目標は、もっと研究を進めて学会で論文を発表することです。いまは興味の持てる分野に出会えて夢中で勉強している段階なので、卒業後の具体的な進路にまでは考えが及んでいないのですが、研究や資格試験など目の前の目標を達成しながら、4年間で身についた知識を活かせる職業に就きたいと思っています。

AI、著作権法、国家資格……
「学びたい」が連鎖する刺激的な日々

情報分野の知識や技術を駆使して
他者の課題を解決することがミッション

VOICE 02

綿引 晴人 3年

私立明秀学園日立高等学校（茨城県）出身

iTLに入学しようと思ったのはなぜ？

理由はいくつかあって、大きかったのは高校時代の先輩がIT系に強く、ウェブサイトをつくったりしているのを見てすごいなと思ったことです。その先輩がiTLに入学したのに加え、文系で情報技術を学べる大学は貴重だったので、自分もiTLへ。実際に学んでみるとやはりおもしろく、1年次は「プログラミングのための数学」、2年次は「オブジェクト思考プログラミング」など、必修科目以外にも情報系の授業を多く選択しました。

ゼミやサークルなど、授業以外の活動は？

ゼミでは「AIによる類似商標画像の検索」をテーマに研究しています。最初は病害のある農作物を自動で判定し、農家の方々の負担を減らすようなAIの研究がしたかったのですが、途中で対象を「商標」に変えました。企業などが商標登録をする際、特許庁が既存の商標に類似したものがないか判定します。世の中には膨大な数の商標があるので、AIを使って判定すれば大幅なコストと時間の削減につながりますよね。そのほか、研究以外で思い出深いのは学祭実行委員会の委員長です。2年次に委員をしていたとき、特定の委員に役割が集中することが課題だと感じていたので、3年次に自分が委員長になってからは役割の不均衡を解消すべく奔走。役割分担のルールが機能し、組織が良い意味で変わっていくのを見るのはうれしかったです。

今後の目標、将来の夢は？

少し前までは企業のなかで自社のシステムを開発する社内SEになりたかったのですが、よく考えると自分のモチベーション源は他者への貢献だよなあ、と。だれかが抱える課題や悩みを解決して、マイナスの状態からフラットな状態に持っていくのが好きなんですね。その意味ではクライアントワークやコンサルのほうが向いているかもしれない。いずれにしても自分の技術力をいま以上にしっかり高めたうえで、人の技術導入の支援もできる仕事をするのが理想です。

VOICE 03

仁谷 安里 2年

私立立教女学院高等学校（東京都）出身

埋もれた最先端技術を発掘して世界の人びとを笑顔にしたい

情報と法学、どちらに興味がある？

両方です。高校生の頃から法律分野に興味があったものの、「六法全書丸暗記！」みたいなイメージがあって法学を学ぶことに尻込みしていました。iTLは法学の基礎はきちんと押さえつつ、これまで世の中になかった最先端技術のルールづくりについても学べることに惹かれました。というのも新しいテクノロジーについても幼い頃から興味があり、たとえばスマートフォンなど私たちの生活を大きく変えうる技術やモノに出会うと人一倍わくわくするような子だったんですね。その意味で、法学も情報系も学べるiTLは自分にぴったりでした。

ゼミやサークルなど、授業以外の活動は？

ゼミではAIについて研究を進めています。大きな可能性を秘めたAIは私たちをものすごくわくわくさせてくれる技術である一方、生活に実装するにはリスクも伴います。たとえば公平で合理的な判断や評価をしてくれるはずのAIが、マイノリティへの差別や不平等を増長させる結果を導き出すのではないかと懸念されたり。その場合、AIに不備があるわけでなく、AIを開発する人間のほうに問題があったりするので、むしろ人間の思考に向き合わなければなりません。そんな研究をすると同時に、社会の課題を解決するためのサービスを構築するスキルを高め合う学生コミュニティの幹事になったので、そちらの活動にも力を入れていきたいと思っています。

今後の目標、将来の夢は？

昨今、世界中で日々たくさんの最先端技術が生まれていますが、法の壁などさまざまな理由から商用化や実用化に至らないものも少なくないそうです。そうした技術がアメリカの研究所に蓄積されていると先生から聞いたとき、いつか現地に見に行きたいと思いました。人知れず眠っている素晴らしい技術をすくい上げ、世の中に実装できるかたちに変えて、いろんな人を笑顔にできたら。漠然と、そんな夢を思い描いています。

情報セキュリティを極め、インターン先で「知識は力なり」を実感

VOICE 04

佐藤 生成 4年

私立中央大学附属高等学校（東京都）出身

内定先　株式会社ラック

iTLに入学しようと思ったのはなぜ？

大学は法学部に進むつもりでしたが、これからの時代、法律だけでなくITのことも知っておいた方が良いだろうと考えてiTLへ。高校時代は数学が大の苦手だったので、授業についていけるか心配でしたが、情報系の知識を基礎の基礎から教えてもらったことで興味が少しずつ増していき、特に「基本情報技術者試験」をはじめとする複数の資格試験の勉強をする課程で情報セキュリティへの関心が大きくなっていきました。

ゼミやサークルなど、授業以外の活動は？

ゼミは情報セキュリティを研究するゼミに所属しています。海外のサイバー犯罪にはどういった事例があり、それが法的にどう判断されたのかを研究したり、ICTの知識と技術を幅広く身につけるために自分でBOTをつくってみたり。サークルはアルティメットサークルです。アルティメットとはフリスビーのようなディスクをパスしながらコート内を端から端まで運ぶチーム競技で、3年次は会長を務めました。就活で一度離脱しましたが、4年次には全国大会で8位になることができ、いま振り返ると勉強にサークルにと充実した学生生活だったかなと思います。

今後の目標、将来の夢は？

就活開始時点では進路をセキュリティ関係に限定したくなかったので、幅広い視野を持って検討していました。あるIT企業でインターンをはじめたところ、周囲のインターン生は優秀な方ばかり。そんななかグループディスカッションでセキュリティの観点から意見すると「その視点はなかった」と感心されることが多くて。結局のところ、ずっと勉強してきたセキュリティへの特化が自分の強みになることにあらためて気づかされました。最終的にセキュリティサービスを手がける会社を第一志望にして、株式会社ラックに内定。将来はセキュリティ業界内での仕事だけにこだわらず、多様な業界でウェブサービスの安全を守るお手伝いがしたいです。

LICENSE

知識のアウトプットで将来につなげる、資格取得。

大和田 光紀 3年　清真学園高等学校（茨城県）出身

IT業界をめざす人には欠かせない 3つの情報処理系の資格を次々に取得！

入学後、2年間で「ITパスポート」「基本情報技術者」「応用情報技術者」という3つの国家資格を取得しました。これらの資格を取るに至ったきっかけは情報処理技術者試験の入門編である「ITパスポート」です。「ITパスポート」は難易度があまり高くなく、1年次の必修科目「基礎情報学」の授業を受けていれば、特別な勉強はしなくても合格できる内容です。それならばと受験し、いざ合格すると、さらに上の資格にも挑戦したいという欲が出てきました。iTLが認定されている科目A試験免除制度や、先生が開催してくださる勉強会なども利用した結果、「基本情報技術者試験」と「応用情報技術者試験」にもそれぞれ一回のチャレンジで合格することができました。iTLの授業と情報処理技術者試験は内容の親和性が高いので、資格を取らないともったいないというのが私の考え。情報系の資格は、就職活動時に大きな武器になるのはもちろん、勉強で身についた知識は社会に出たあとも重宝するはずです。

iTLではさまざまなキャリア・スキルフレームワークで資格取得をしっかりとサポートします。また、iTLでの学びにより「基本情報技術者試験」と「情報処理安全確保支援士試験」の一部が免除されます。

技術者の能力評価
（共通キャリア・スキルフレームワーク）

【基本情報技術者試験の科目A試験の免除】
「基礎情報学」、「インターネット概論」の2つの必修科目の単位を取得し、かつ、学内で実施する試験に合格することで、国家試験の登竜門資格である基本情報技術者試験（CCSFレベル2）の科目A試験が免除されます。

【情報処理安全確保支援士試験午前Ⅱ試験の免除】
「情報ネットワーク論」、「情報セキュリティ論」、「システム開発論」の3つの科目の単位を取得し、かつ、iTLを卒業することで、国家試験のハイレベル資格である情報処理安全確保支援士試験（CCSFレベル4）の午前Ⅱ試験が免除されます。

岡嶋 裕史教授

STUDY ABROAD

語学と専門性を磨く、海外留学。

長期留学

交換留学

本学の協定校（40以上の国・地域）に学生を選抜し派遣。原則、留学中に修得した単位は本学の卒業単位として認め、4年間での卒業も可能。留学先大学の学費は原則として免除されます。

認定留学

協定校以外で、本学が認めた外国の大学・機関に留学。交換留学同様に4年間での卒業も可能。留学先大学の学費は納入する必要がありますが、学費減免や奨学金の給付を受けることができます。

アラン 江玲奈 4年
東京都立駒場高等学校出身

Study Abroad Report

「メディア」を専門に学ぶ日々、諦めずに掴んだ留学

留学先のイギリス・レスター大学では、メディアの歴史や現代におけるメディアとの向き合い方などを学びました。授業の構成は「120分の講義」と「学生同士で討論する60分の演習」。演習では必ず学生の意見が求められるため、自分自身も予習をしっかりとしてから授業に臨む習慣がつきました。授業で取り扱われるテーマは、ヨーロッパでの事例が中心でありつつ、世界各国のニュースや企業の事例も多く取り上げて考察していた点が印象的でした。とりわけ、メディアが与える印象操作については非常に興味深かったです。湾岸戦争時に流出した油にまみれた水鳥の写真が実は事実ではなかったり、インフルエンサーがよく知らずに宣伝しているダイエットサプリが実はなんの効用もないものであったり。マスメディアだけではなく個人もインターネット上で自由に発信できるようになった現代だからこそ起こりうるメディアの問題点は、iTLで学んできた情報と法律の問題とも共通しています。国際的な対応が急務であるこれらの問題を、いち日本人としてイギリスで学び、ディスカッションできた経験は非常に貴重でした。
専門の分野だけではなくさまざまなことを学んだ密度の濃い1年を振り返って思うことは、あの時コロナ禍を理由に留学を諦めなくて良かったということです。自分の本当にやりたいと思うことに対して希望を持ち続け、一歩踏み出したことによって得た経験は私の人生の財産となりました。
先輩のいないiTLで初めて留学という道を進んだ学生として、少しでも後輩の背中を押せるように、そしてこの経験を無駄にせず両国で学んだことを今後の人生で活かせるよう、過ごしていきたいと思っています。

短期留学（国際情報学部設置科目）

国際ICTインターンシップ

約2週間、長期休暇期間中にシリコンバレーに拠点を置く大学やICT企業を訪問し、グローバルに展開される情報サービスの最前線を体験することができます。

Internship Report

“最先端の街”シリコンバレーでビッグテックの動向や哲学を体感したい

大学の休暇を利用したアメリカ西海岸で活動する「国際ICTインターンシップ」を履修 。プログラムの目玉は、今や知らない人はいないビッグテック本社への訪問で、社員の方やシリコンバレーの起業家の方々にお話をうかがいます。私がこの科目を履修した最大の目的がまさにビッグテックへの訪問。今インターネットはこれまでのWeb2.0からWeb3.0へ移行する転換期にあると言われています。Web2.0の世界でビッグテックがいろいろなものを独占したことによる弊害やフェイクニュースなどの諸問題は、ブロックチェーン技術を前提にしたオープンなWeb3.0の世界で是正されるのか。ビッグテックはどんな戦略を練ってくるのか。日本にいるだけでは知り得ない最前線の空気や、ビッグテックの働き方の哲学を体感するのが本当に楽しみです。卒業後はグローバルなIT企業で働きたいと考えているので、ITの現場で通用する“生きた英語”も習得したいですね。

気谷 聖子 2年
私立中央大学杉並高等学校（東京都）出身

ICT留学

約4週間、大学の長期休暇期間中にオーストラリアの大学の講義を受けながら、現地の企業・機関を訪問します。
英語力の向上はもちろんのこと、現地の産業について理解を深めることができます。

FUTURE JOBS & GRADUATE SCHOOL

「情報の仕組み」と「情報の法学」の専門性を身につけ、卒業後の進路を決めた学生たちの声を紹介。

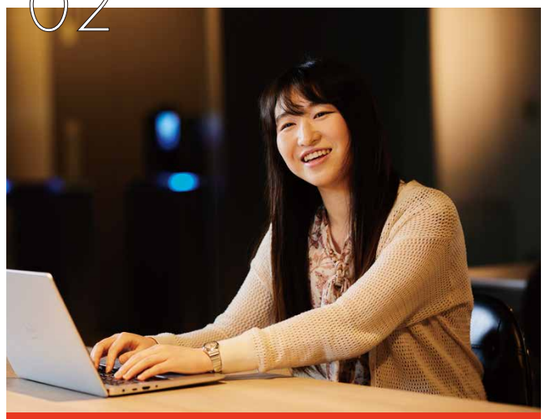
01

野村総合研究所内定

葛岡 拓真　4年　長野県飯田高等学校出身

もともと情報系に興味があったのですが、iTLのカリキュラムは情報技術を法律面、倫理面からも検討できるよう設計されています。幅広く学ぶなかで痛感したのは、技術はそれ自体では世の中を良くすることはできず、技術に付随するさまざまな課題――法的あるいは倫理的な問題などをクリアにしたうえで社会に実装して初めて進歩をもたらすということです。そう考えたときに、あらゆる技術を支えるセキュリティの重大さに気づき、セキュリティ関連の職業を志すように。就活では自分がセキュリティに興味を抱いた経緯や学部で身につけた複合的な観点を強調した結果、野村総合研究所にセキュリティスペシャリストとして内定しました。

02



NTTドコモ内定

内村 有里　4年　私立常総学院高等学校（茨城県）出身

iTLで学ぶうちに「情報の法学」のおもしろさに目覚め、AI・ロボット法のゼミへ。卒業後は新しい技術や情報サービスのルールメイキングに携わる仕事がしたいと考えるようになりました。当初は公務員をめざしていたものの、就活を進めるうちに民間企業でも自分のやりたい仕事ができそうだと知って。なかでもNTTドコモがAIによる自動運転を含めたスマートモビリティ事業を展開していると聞いて興味を持ち、企業理念にも惹かれたので志望したところ内定をいただけました。ゆくゆくは交通インフラの乏しい場所に住む交通弱者と呼ばれる方々の移動をサポートするような手段をつくりたいと思っています。

03

文部科学省内定

渡辺 竜世　4年　さいたま市立大宮北高等学校出身

EdTech（エドテック）と呼ばれる、教育とデジタル技術の融合について学ぶゼミで「高等学校におけるICTを活用した英語の授業の実態とその分析」を研究してきました。たとえば2019年に文部科学省が「GIGAスクール構想」という全国の児童・生徒に一人一台タブレット端末を普及させる施策をはじめたときは、実際の高校の英語の授業を録画・分析し、教師と生徒それぞれにICT化された授業への意見と感想を聞き取りました。学生時代を通して得たEdTechに関する学びを活かせる仕事がしたいという思いから、卒業後は文部科学省へ。今後は国家公務員という立場から、全国の児童・生徒にとってベストな教育を追究していきます。

卒業生の主な内定先

アクセンチュア／日本オラクル／BIPROGY／ベイカレントコンサルティング／日本総合研究所／MS&ADインターリスク総研／みずほリサーチ＆テクノロジーズ／日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ／フューチャー／シンプレクス・ホールディングス／デロイトトーマツアクト／ソフトクリエイトホールディングス／リクルート／日本アイ・ビー・エム／SCSK株式会社／NECソリューションイノベータ／Dirbato／ヤフー／キヤノンマーケティングジャパン／ANAシステムズ／インターネットイニシアティブ／クロス・マーケティンググループ／Sansan／トヨクモ／ラック／富士フイルムビジネスイノベーションジャパン／リコージャパン／パーソルホールディングス／ネクサスエージェント／カプコン／MIXI／ポラス／ユニ・チャーム／日本食研／レバレジーズ／エン・ジャパン／TSIホールディングス／三井住友銀行／三井住友信託銀行／三菱UFJ信託銀行／みずほ証券／四国旅客鉄道／NHK（日本放送協会）／共同通信社／地方公共団体情報システム機構／東京都庁／札幌市／東京国税局／　等

04

日本電気株式会社内定

池田 雄輝　4年
私立中央大学附属横浜高等学校（神奈川県）出身

AI・DX・IoT。どの分野の企業においても必要とされる知識は、私の強みになりました。

05

慶應義塾大学大学院法務研究科進学

小﨑 愛華　4年
私立東京女子学園高等学校（東京都）出身

産・官の第一線で活躍するゲストスピーカーのお話を聞くうちに、法律の知識をさらに深めようと決意しました。

06

楽天グループ株式会社内定

千葉 七星　4年
私立山手学院高等学校（神奈川県）出身

正課の学修や研究、大学祭等の課外での活動、密度の濃い４年間は私の人生の大きな財産です。

07

横浜市役所内定

川島 陸登　4年
神奈川県立光陵高等学校出身

大学が開講する公務員講座はとても有用でした。生まれ育った横浜市のこれからに貢献したいです。

08

中央大学大学院国際情報研究科進学

西 あやの　4年
私立江戸川女子高等学校（東京都）出身

「情報」と「法律」という唯一無二の学びを、大学院で私のオリジナルの研究に昇華させたいです。

Webにて特設ページ公開中！

就職・進学（内定者の声）

学生それぞれの入学前の思い、入学後の学びや課外活動・就職活動の様子、受験生へのメッセージをご覧いただけます。

いますぐCHECK! >>>

SCHOLARSHIP SYSTEM

国際情報学部独自の奨学金制度を紹介。

iTL先端的プロジェクト奨学金（学長賞・学部長賞給付奨学金）

国際情報学部では、国際社会が抱える情報の諸課題を多角的に分析・解明した上で、その問題の解決策を論理的に構築し、国際社会に受容される情報サービス・政策を実現できる人材の養成を目指しています。その理念を体現する研究を計画する学生に、研究を促進するための奨学金を支給しています。奨学金の支給を受けた学生は、アプリケーション・ソフトウェアの開発や遠方での調査のための費用等、研究に必要な経費に充てて、充実した研究活動を行っています。

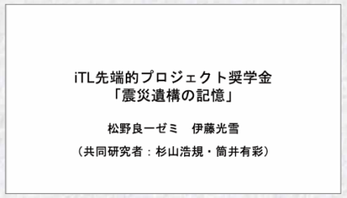
津田 敦哉　4年　私立和光高等学校（東京都）出身

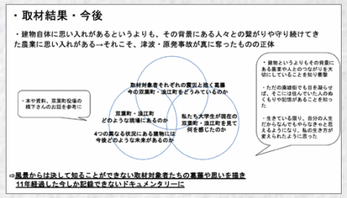
内定先　NHK（日本放送協会）

近年では、半数以上の子どもが小学生の段階でスマホを持ち始めるとも言われています。それとともに、情報セキュリティ教育を早期におこなう重要性も増してきていますが、従来の教材の中には、子どもが学習するにはハードルが高いものも多く見られました。そこで、ゲームを取り入れた新たな教材を作れば、児童・生徒のセキュリティ意識や学習へのモチベーションを高められるのではないか。そう考えてプロジェクトを立ち上げ、制作費として奨学金を申請しました。開発したのは、「もしも戦国時代にITがあったら…」という内容のノベルゲーム。システム開発は自分でおこない、シナリオとイラスト制作の外注費や必要なソフトウェアの購入などに奨学金を充てました。学校の授業などで取り入れてもらえるような実用性の高いものを作ることが、このプロジェクトの最終的な目標です。そのために今後は、開発したゲームや授業用の資料などをウェブ上で一般公開することも検討しています。

伊藤 光雪　3年　私立桜の聖母学院高等学校（福島県）出身

東日本大震災の被災地・福島県の双葉町と浪江町の惨状を初めて見たときに衝撃を受け、以来、毎年訪れるようになりました。何年もの間、見渡すかぎり土が広がる更地だったのが、被災した建物の解体が年々進み、新たな建物ができていく光景に違和感を抱いたんです。地震や津波が消し去った建物の持ち主の目にはこの光景がどう見えるのだろう――。そう思うと同時に、いまも震災当時の姿のまま残されている建物（震災遺構）に目を引かれました。これら震災遺構を取材して、現状や持ち主の思いを明らかにしたい。プロジェクトのメンバー3人の滞在費や移動費に奨学金を充て、合計1週間におよぶ取材を敢行しました。現地では4カ所の建物を訪れ、建物の持ち主や建物で勤務していた方々にインタビュー。取材の成果をドキュメンタリー映像としてまとめたうえで、復興とはなにか、「故郷」とはなにかについて、今後も研究を進めていくつもりです。





「ICT留学」給付奨学金 ／「国際ICTインターンシップ」給付奨学金

国際情報学部では、短期の留学系科目として「ICT留学」と「国際ICTインターンシップ」を正課の科目として開講しています（19ページ参照）。各科目の履修を希望する学生のうち、学部が指定する出願資格を満たし、かつ、各科目の履修により更なる飛躍が期待できる学生には、奨学金を支給しています。2022年度も本奨学金の支給を受けて、多くの学生が、アメリカ・オーストラリアに旅立ちました。

iTL給付奨学金

国際情報学部の教育課程と親和性の高い資格試験、例えば、応用情報技術者試験や高度情報処理技術者試験（18・19ページ参照）、司法試験や弁理士試験、国家公務員総合職試験等に合格した学生、学会や各種コンテスト等において優秀と認められる成果を出した学生に、奨学金を支給しています。国際情報学部は、様々な資格試験に挑戦する学生を応援します。授業や課外学習でインプットした知識は、どんどんアウトプットしてください。

FACULTY MEMBERS

iTLでは、21名の専任教員と数多くの実務経験豊富な兼任教員によって授業が展開されます。教員の約4分の1は大手シンクタンク経験者です。
企業法務経験者や元外交官、総務省からの派遣教員などが担当する授業もあります。

情報の仕組み
Information Technology

- 飯尾 淳 教授 IIO Jun
- 小花 聖輝 准教授 KOHANA Masaki
- 吉田 雅裕 准教授 YOSHIDA Masahiro
- 岡嶋 裕史 教授 OKAJIMA Yushi
- 須藤 修 教授 SUDOH Osamu
- 角田 篤泰 教授 KAKUTA Tokuyasu
- 松崎 和賢 准教授 MATSUZAKI Kazutaka

×

情報の法学
Law

- 石井 夏生利 教授 ISHII Kaori
- 小向 太郎 教授 KOMUKAI Taro
- 平野 晋 教授 HIRANO Susumu
- 岩隈 道洋 教授 IWAKUMA Michihiro
- 中島 美香 准教授 NAKASHIMA Mika
- 大手 英明 特任教授 OHTE Hideaki
- 中村 真利子 准教授 NAKAMURA Mariko

×

情報の国際文化
Global & Culture

- 斎藤 裕紀恵 教授 SAITO Yukie
- 保坂 俊司 教授 HOSAKA Shunji
- 矢島 壮平 准教授 YAJIMA Sohei
- 西村 篤子 教授 NISHIMURA Atsuko
- 松野 良一 教授 MATSUNO Ryoichi
- 橋本 健広 教授 HASHIMOTO Takehiro
- 村田 雅之 教授 MURATA Masayuki

※2023年4月現在の専任教員の紹介です。教員の構成やゼミの内容は変更になることがあります。

飯尾 淳 教授 IIO Jun

研究分野
ヒューマン・コンピュータ・インタラクション
行動情報分析

担当科目
プログラミングのための数学
プロジェクトマネジメント 等

〈ゼミの内容〉人間とコンピュータのインタラクションや、サイバーワールド及びリアルワールド両面における市民の行動分析等について研究します。
コンピュータや情報システムを用いて解決したい社会課題を見つけ、アプリケーションやシステムを実際に製作することで問題解決に挑戦します。必要があれば、システムの構築だけでなくシステム運用に伴う社会規範のあり方やシステムの活用方法についても議論します。
演習は各自のテーマに関連する文献の収集と読解から始め、システムのプロトタイプ構築やデータ収集等に進みます。成果を対外的に発表することも応援します。

岡嶋 裕史 教授 OKAJIMA Yushi

研究分野
情報ネットワーク
情報セキュリティ

担当科目
基礎情報学
インターネット概論
インターネット文化とサブカルチャー 等

〈ゼミの内容〉情報システムや情報ネットワークの知見を使って、各種の社会課題の解決に取り組んでいただきます。理論を考える学生も、実装を行う学生も歓迎です。机上で行うケーススタディだけではなく、現実の企業との連携研究も行っています。一例としては、子ども向けプログラミング教育を最適化するための教育パッケージを、実際に子ども向け教室を運営している企業と連携しながら作っていく研究等を実施してきました。その過程で生じるトラブルを克服した経験が、実務を遂行する上で大きな力となるでしょう。積極的に授業に参加し、できるだけ多くのトラブルを経験してください。

角田 篤泰 教授 KAKUTA Tokuyasu

研究分野
法情報学・リーガルテック
人工知能
教育支援システム

担当科目
情報倫理
リスクコミュニケーション
システムコンサルティング技法 等

〈ゼミの内容〉社会実装を目指してWeb上の様々なシステムの開発やコンテンツの制作を進めます。特に法律や文化芸能などの人文社会学系分野へのIT応用やAI応用を行っています。例えば、裁判ロールプレイ、ダンス振り付け、お化粧アドバイス、仮想アイドル制作など様々な分野への応用研究がゼミ生によって実施されています。ゼミ活動を通して、システム科学や論理学の知見も学び、各学生の必要に応じて、画像認識、3DMV、シナリオ設計などの技法についても学びます。スパコンを用いたAIによる法令自動作成など世界最新の研究プロジェクトに加わることも可能です。

小花 聖輝 准教授 KOHANA Masaki

研究分野
Webシステム
並列・分散システム
テキストマイニング

担当科目
コンピュータアーキテクチャ
システム開発論
OS とハードウェア 等

〈ゼミの内容〉Webシステムに関する研究をします。
日々の生活をより便利にするためのアプリケーションや、様々な背景を持つ訪日外国人に向けたサービス等、幅広いアプリケーションを扱います。
演習では、基礎的な技術から最新の技術まで、論文や書籍、技術の標準化に関する資料、プログラムのソースコードまで多岐に渡る文献を調査した上で、実際にアプリケーションを開発し、どのような技術で作成したのか、より良いものにするには何が必要となるのかを議論していきます。

須藤 修 教授 SUDOH Osamu

研究分野
国際情報学
社会情報学
医療情報学
応用経済学

担当科目
国際情報概論
特殊講義（ブロックチェーンとWeb3）等

〈ゼミの内容〉世界は新たな文明の生成に向けて大きな変動期にあります。その大変動を引き起こす重要な要素としてAIやIoT等の情報通信技術、データの爆発的な生成とその利活用があります。これまでの社会や人間の在り方も大きく変わる可能性が高いといえるでしょう。
最先端の情報通信技術の革新や社会制度の刷新について学ぶとともに、それらの考察を踏まえて人間の進化について考えます。同時に全ての参加者が社会をより良き方向にリードできる人材に成長するよう、様々な企業や研究機関と共同プロジェクトを通して新たな学びを行うことを予定しています。

松崎 和賢 准教授 MATSUZAKI Kazutaka

研究分野
制御システムセキュリティ
ソフトウェア工学

担当科目
プログラミング基礎
情報セキュリティ論
システムとソフトウェア 等

〈ゼミの内容〉現代社会を取り巻くサイバーセキュリティに関する脅威と対策について、事例を通じて学びます。
国内外の事例報告や起訴状等を紐解くことで、地政学、時期、分野等によるサイバー攻撃の違いや変化を理解します。こうした変化に対して、法制度の整備やシステムのあり方の把握を目指します。演習では、課題資料を事前に読んで、その内容を要約し、演習の場で発表して議論を行います。課題資料としては、事例に基づく公開資料等を用いる予定です。また、具体的な脅威と対策を体感できるテストベッド環境を共同で構築していくことも予定しています。

吉田 雅裕 准教授 YOSHIDA Masahiro

研究分野
IoT
AI

担当科目
情報理論
情報ネットワーク論
データマイニングとAI 等

〈ゼミの内容〉IoTに関する研究を行います。自動車やドローン等の「自動運転」に使われているセンサ、モバイル通信、データサイエンス、AI等を中心に、最先端の「情報の仕組み」に関する技術を習得します。そして、ユニークな発想のもとで「未来をより良くする成果物」を制作します。また、近年の社会問題や国際情勢を踏まえて、自分の成果物が社会に与える影響力を把握し対応する能力を養成します。演習では、数人ごとにチームを組み、協力して1つの成果物を制作していきます。自動運転するラジコンや、好きなジャンルのゲームAI等、自分たちが作りたいものをイメージし、試行錯誤しながら作り上げていきましょう。

石井 夏生利 教授 ISHII Kaori

研究分野
情報法
プライバシー・個人情報保護法

担当科目
法学概論
情報プライバシー権法
ICTビジネスと公共政策 等

〈ゼミの内容〉プライバシー・個人情報保護法を中心とした情報の取り扱いを巡る法的諸問題について研究を行います。
プライバシー・個人情報保護法は、いわゆる六法に加え、知的財産権法、消費者契約法、景品等表示法、独占禁止法等、他の法分野とも関連性を持っています。このような他の法分野の理解を含め、広い視野からの分析能力を養うことを目指します。
演習では、報道等で話題となる様々な事案の分析を通じた論点発見、裁判例調査、現行法制度の課題解決策の検討等に取り組みます。資料は、国内外の裁判例、学術論文、政府の政策文書等を用いる予定です。

岩隈 道洋 教授 IWAKUMA Michihiro

研究分野
公法
情報法
宗教法
比較法学

担当科目
情報と憲法
法情報学
情報と国家安全保障 等

〈ゼミの内容〉国家と国民、そして国家と国家の間の関係を取り扱う公法分野（憲法・行政法・国際法）を中心に、情報法制その他の法律問題を多角的に検討します。
最初は法学の基礎力を養成するために、民刑事の分野も含めた基礎概念と法的思考の習得に力を入れます。並行して、外国の法文化や、情報技術の社会的・法的な特性も学びます。ミニ講義と文献講読から始めますが、できるだけ早い段階で、各自が立てた課題の報告と、全員でのディスカッションの形式に移行します。
希望があれば、公務員やロースクール等の受験も支援したいと思います。

※「ゼミの内容」は「国際情報演習Ⅰ～Ⅴ」の内容です。

FACULTY MEMBERS

大手 英明 特任教授 OHTE Hideaki

研究分野
情報政策
デジタル社会の健全な発展を促すルール形成の在り方

担当科目
情報政策概論
情報政策ワークショップ
国際規約と国際標準化団体 等

〈経歴紹介〉
2005年総務省へ入省。
総務省総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課課長補佐、内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター参事官補佐、総務省情報流通行政局総務課統括補佐等を経て、iTLに就任。

〈メッセージ〉
各科目において、情報分野における国の施策・政策、そしてそれらの立案の方法・プロセス等に関する講話・アドバイスをします。iTLの卒業生から、政策と向き合いつつ、今後のデジタル社会の発展をリードしていく方が出てくることを期待しています。

小向 太郎 教授 KOMUKAI Taro

研究分野
情報法
情報通信法

担当科目
情報法
情報通信法
企業と情報法 等

〈ゼミの内容〉インターネットや携帯端末の普及は、生活を便利にする一方で、新しい深刻な問題も生み出しています。例えば、サイバー攻撃、詐欺などの犯罪、SNSの炎上、著作権侵害、個人情報の悪用、フェイクニュースの氾濫などです。こうした問題がどうして生じるのか、どうして取り締まられないのか、法的にはどう位置付けられてられているのか、問題を解決するためにどのような取り組みがされているのかなど、疑問に思っている人も多いのではないでしょうか。演習では、上記のような課題について、ICTの技術的な背景や利用の実態も踏まえて、調査分析とディスカッションを行います。これらを通じて、論理的に問題を検討する力をつけることを目指します。

中島 美香 准教授 NAKASHIMA Mika

研究分野
民事法
情報法
競争法

担当科目
民事法(総則と情報契約法)
競争法(情報競争法)
消費者保護法 等

〈ゼミの内容〉デジタル・プラットフォーム企業*に関する新しい技術やビジネスの進展に伴う法制度上の課題について研究します。これにより、我が国におけるデジタル・プラットフォーム企業の公正な競争のあり方を明らかとするとともに、デジタル・プラットフォーム市場における健全なイノベーションのあり方、消費者の利益を確保するための方策を明らかとすることとします。研究にあたっては、民事法、消費者保護法、競争法(独占禁止法)の法解釈に基づく思考力の養成を基礎とし、最新の政策動向なども視野に入れて、実務上の課題を解決できる人材の育成を目指します。
*米国のGAFA、中国のBATHなど。

中村 真利子 准教授 NAKAMURA Mariko

研究分野
刑事法

担当科目
法学概論
刑事法(概論)
刑事法(サイバー犯罪の刑事規制) 等

〈ゼミの内容〉サイバー犯罪をめぐる法整備と課題について研究します。
サイバー犯罪とは何か。これを適正に処罰するためにはどのような手続を経なければならないか。近年の法改正や具体的な事案をもとに、各自が具体的なテーマを設定して調査研究し、演習で発表と議論の場を設けます。
調査研究は、最高裁判所や下級審の判断について紹介・解説する判例研究や、諸外国の制度との比較検討を行う比較法研究が中心です。このような研究を通じて、グローバル化社会において生じ得る様々な刑事法上の問題について自ら考える力を身につけることを目指します。

平野 晋 教授 HIRANO Susumu

研究分野
アメリカ法
製造物責任法

担当科目
AI・ロボット法
法と経済学
国際契約の起案学 等

〈ゼミの内容〉AI・ロボット法に関連する諸課題と解決策について研究します。
研究にあたっては、法律学の知識と思考力の養成を基本としつつも、AIやロボットに関連する基本的な仕組みと技術の理解や、法律以外の社会規範や倫理等の理解も深めて、課題と解決策の案を多面的に捉える能力の養成も目指します。派生型トロッコ問題がその一例です。
演習では、課題となる資料を事前に読んで、その内容の要約を行い、これを演習の場にて発表して、皆で議論します。課題となる資料としては、日本及び米国の裁判例、並びに日本及び外国の有識者会議の公開資料等の政策関連文献や論文等を扱う予定です。

斎藤 裕紀恵 教授 SAITO Yukie

研究分野
CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)
言語教育政策
語用論
EdTech

担当科目
統合英語
ICT留学
国際ICTインターンシップ 等

〈ゼミの内容〉現在、ITの発展は教育の分野でも影響を与え、MOOC(Massive Open Online Course)やe-learning等、様々なEdTech(Education×Technology)教育と技術の融合が進んでいます。本演習ではe-learningやアプリケーション等、英語教育・英語学習に取り入れられているEdTechの実例と効果と影響、現在抱える問題とその解決策、将来性について研究を行います。演習では、EdTechの実例や効果と影響に関する先行研究(英語文献を含む)の調査や、自らのEdTech×英語の体験調査を通してその効果や問題点についての発表も行います。また、学際的な視点からEdTechを構成する「情報の仕組み」、EdTechを取り巻く「情報の法学」についても学びます。

西村 篤子 教授 NISHIMURA Atsuko

研究分野
国際関係論
外交政策論

担当科目
外交政策論
情報と外交
国際文化論 等

〈ゼミの内容〉情報をめぐる変化がグローバル・ガバナンスにもたらす諸課題と解決策について研究します。
情報技術の革新は、5Gをめぐる覇権争い、国境を越えるデータ管理の問題等にみられるように、安全保障、経済、人権、文化等、多方面において、既存の国際社会の法や秩序、国際協力等では対応しきれない課題をつきつけています。
演習では、情報に関する技術面・法的側面に関する知見を活かしつつ、国内外の公的資料、研究資料、リアルタイムの動向等の分析・議論を通じ、これらの諸課題の現状と展望について考察し、解決策を提示できる力の涵養を目指します。

橋本 健広 教授 HASHIMOTO Takehiro

研究分野
イギリス文学
CALL
英語教育学

担当科目
情報英語
情報と言語
Practical English for Informatics 等

〈ゼミの内容〉主にイギリス文学を題材とし、読解と計量分析を行います。
文学全般への理解と素養をもとに、テキストを選んで精読し、内容を理解します。その上で、文学のデータ分析に挑戦し、データから得られる知見と読解や関連情報から得られた知見を融合する文学研究の方法を学びます。
演習では、イギリス文学概説及び簡単なテキスト読解と文学をデータ分析する手法を主に学びます。課題を前もって読んで発表し議論する形式を取ります。データ分析に必要な情報の基礎や情報演習、著作権についても取り上げる予定です。

保坂 俊司 教授 HOSAKA Shunji

研究分野
インド哲学
比較思想
比較宗教学・比較文明学

担当科目
宗教学
比較宗教論
宗教とメディア 等

〈ゼミの内容〉「宗教と情報文明」というテーマで、新しい視点から宗教存在の重要性を体系的に検討します。
日本人は宗教に関して良いイメージを持たない傾向にありますが、AIを基礎とするグローバル時代において宗教が果たす役割は、従来以上に重要となっています。
本ゼミでは、世界の主要な宗教に関して「宗教は文明のプロトタイプ(祖型)」をキーワードとして、それらの基礎知識を総合的に習得することを目指します。なぜなら、世界で活躍出来る一流の知識人には、高度な教養が不可欠ですが、その核を為すのがいわゆる宗教に関する知識だからです。

松野 良一 教授 MATSUNO Ryoichi

研究分野
ジャーナリズム論
ルポルタージュ論
ドキュメンタリー論
戦争と報道
生命倫理と報道

担当科目
特殊講義(ジャーナリズム論)
特殊講義(ドキュメンタリー論) 等

〈ゼミの内容〉地域に根ざした映像コンテンツの制作・発信が、どのような影響力を持つのか、そして、制作者の能力をどう開発するのかを研究します。
ゼミでは実際に、スマホやカメラを使って、インバウンド観光用ビデオ、ドキュメンタリー、スタジオを使った番組等の様々な映像作品を制作します。ロケ地は、国内は、首都圏及び北海道、福井県、沖縄県、海外は、台湾とベトナム等を予定しています。アジアの著名大学との交流やプレゼンテーション等も行います。
最終的に、長編のドキュメンタリー作品を制作し、それに付随する卒業論文を作成します。

村田 雅之 教授 MURATA Masayuki

研究分野
社会心理学
メディアリテラシー
教育デザイン

担当科目
メディア論
比較メディア論
情報心理学 等

〈ゼミの内容〉デジタル社会の諸問題を、主に「社会心理学」「教育デザイン」の視点から研究します。現代社会において、「こころ」や「メディア」に関わる課題を見出すことは難しくないでしょう。しかし、テーマを発見し、関心を絞り込み、何が語られてきたのか把握し、まとめあげる手法を身につけるには、段階を踏んだ訓練が必要です。演習では、文献報告と討論を輪講形式で行う段階から、調査を企画し、文献研究、データ収集、分析、報告、可能ならコンテンツ化までを行う予定です。様々な要因が複雑に絡み合った問題を解決するために、複数の学問領域に越境する姿勢も修得してほしいと考えています。

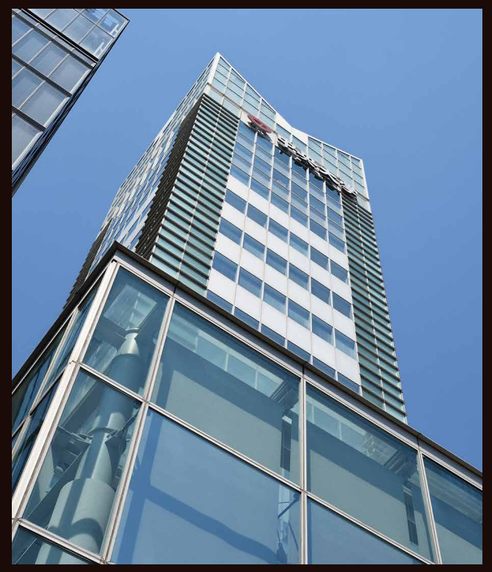
矢島 壮平 准教授 YAJIMA Sohei

研究分野
哲学
倫理学

担当科目
哲学
倫理学
比較思想論 等

〈ゼミの内容〉情報について、哲学・倫理学の立場から根源的に考察します。
研究対象となりうる問いは例えば、そもそも情報とは何か、ICTが引き起こす倫理的問題をどのように解決できるか、情報は倫理においてどのような役割を果たすか、等です。とはいえ、間口はできるだけ広く保ち、各自の関心に応じて、多少なりとも情報と関係する哲学・倫理学的問題、または逆に、多少なりとも哲学・倫理学と関係する情報技術的課題を排除しません。
主に訓練する研究手法は、日本語・外国語文献の読解及び論理的文章の作成・発表ですが、その他の手法(情報処理技術等)を補足的に用いることも歓迎します。

※「ゼミの内容」は「国際情報演習Ⅰ〜Ⅴ」の内容です。



iTL

INFORMATION TECHNOLOGY
& LAW
ICHIGAYA TAMACHI LINK

建学の精神を受け継ぎ、時代と人の架け橋として誕生した
市ヶ谷田町キャンパスは“Ichigaya Tamachi Link = iTL”
という使命をもって、さまざまな人と社会、知恵と情報を
つなげる「知の拠点」へと進化していきます。

市ヶ谷田町キャンパス紹介Movie

2019年4月に新装した綺麗なキャンパスをご覧いただけます。

コミュニケーションホール

スタジオ

Ichigaya Tamachi Link

中教室

エントランスホール

受付

顔認証システム

エントランスホール

コミュニケーションホール

C's SHOP(売店)

オープンスペース

エントランスホール

ワークステーション

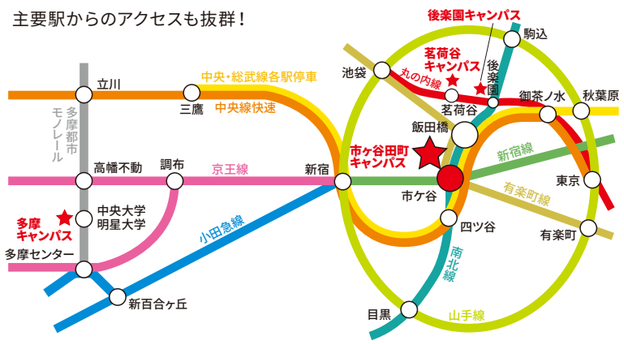
ラーニングコモンズ

小教室

テラス

国際情報学部 市ヶ谷田町キャンパスへのアクセス

主要駅からのアクセスも抜群!



市ヶ谷駅からiTLまでの行き方

■東京メトロ南北線／有楽町線
赤羽岩淵方面／和光市方面のエスカレーターを上がり改札を出る。6番出口正面

■都営地下鉄新宿線
新宿方面階段を上がり改札を出る。1番出口より地上に上がり右に回って橋を渡る。大通りを渡って右に進む。地上出口より徒歩5分。
(交通系ICカードを使用すると、東京メトロ6番出口から出られます)

■JR中央・総武線各駅停車
(快速は停車しません)
新宿方面階段を上がり改札を出る。地上に上がり左にある橋を渡る。大通りを渡って右に進む。地上出口より徒歩5分。

2024年度入学者選抜方法

入試方式		試験科目	
学部別選抜	一般方式	●外国語（英語） ●国語（近代以降の文章）	
	英語外部試験利用方式	個別試験	●国語（近代以降の文章）
		英語資格・検定試験	出願期間初日から遡って2年以内に実施された、次のいずれかの要件を満たすことを出願資格とします。 1. TOEFL iBT®（Home Editionを除く）　56以上（MyBestスコアは対象外） 2. TOEIC®L&R及びTOEIC®S&W（除IPテスト）　合計850以上 3. IELTS（アカデミック・モジュールに限る・CDI含む）4.5以上 4. 実用英語技能検定（英検CBT、S-CBT、S-Interview含む） CSE2.0 スコア2300以上かつ各技能500以上 （受験級は準1級、1級に限る） 5. TEAP（4技能パターン）　300以上※ 6. GTEC（CBTタイプに限る）　1050以上 7. ケンブリッジ英語検定試験 B2 First(FCE)、C1 Advanced(CAE)、C2 Proficiency(CPE)のいずれかの合格 ※各受験回の合計点のみを有効とする。複数回受験した場合でも、各技能の最高点の合算は行わない。
	大学入学共通テスト併用方式	大学入学共通テスト	●外国語（英語） ●地歴公民（「世界史B」、「日本史B」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」）、または数学（「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」、「情報関係基礎」）から1科目選択
		個別試験	●外国語（英語）
大学入学共通テスト利用選抜（単独方式）	3教科型（前期選考／後期選考）	●外国語（英語） ●国語 ●地歴公民（「世界史B」、「日本史B」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」）、または数学（「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」、「情報関係基礎」）から1科目選択	
	4教科型（前期選考のみ）	●外国語（英語） ●国語 ●地歴公民（「世界史B」、「日本史B」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」）から1科目選択 ●数学（「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」、「情報関係基礎」）から1科目選択	

※今後変更が生じる場合がありますので、出願にあたっては、入学試験要項を必ず確認してください。

iTL ガイダンス

※開催日・イベント内容についてはiTL WEBサイトでご確認ください。

ガイダンスでは国際情報学部の魅力をお伝えします。ガイダンス後には、個別相談も実施します。

プログラム①【学部ガイダンス】国際情報学部とは？ iTLとは？国際情報学部のことお話しします。

プログラム②【先輩たちが語るパネルディスカッション】iTLを選んだ理由、将来のことなど先輩たちが各自の視点でお話しします。

プログラム③【個別相談】まだまだ聞きたいことがある方には学生・教職員が質問にお答えします。

50秒で分かる国際情報学部

国際情報学部公式Twitter

学部長挨拶

AIやメタバースの諸課題を解決できる能力を修得せよ！

国際情報学部長 平野 晋
HIRANO Susumu

〈情報社会＝Society4.0〉の次に来る社会が〈Society5.0〉である、と政府は宣言しています。〈Society5.0〉では、仮空世界と現実世界が結びついて、経済発展と社会問題解決双方の達成が目指されています。そこでは、収集されたビッグデータが人工知能（AI）によって分析されて、ロボットや人事採用等の商品や役務に利活用されます。しかし、情報の無秩序な収集・利活用を許せば、プライバシーが保護されません。AIが下した判断にヒトが服従させられるような、ディストピアを懸念する声も聞かれます。

メタバースも、良いことづくめではありません。AR（拡張現実）やVR（仮想現実）等の高度な技術を用いた仮想世界内で、現実世界における自分よりも機能が拡張されたアバターを通じて、他のアバター達とのインタラクション（相互作用）を享受できるメタバースは、現実感、没入感、及び執着心等の多大な心理的影響を利用者に与えます。そのため例えば、他のアバターから暴行を受けたアバターの利用者は、非常に大きな精神的ダメージを受けるけれども、法整備は不十分という指摘もあります。仮想土地や仮想グッズの取引がトラブルになった場合にも、今の法制度では十分に救済されないおそれもあります。

つまり理想的な〈Society5.0〉の達成や、メタバースの広い普及に至る迄には、解決されるべき課題も多く存在します。そして課題解決のためには、AIやメタバースの仕組みを理解しなければなりませんが、それだけでは不十分です。仕組みを改善しても治らない欠点を抑え込むためには、法律などのルールによって規制する必要性も出てきますから、法律の知識も必要になるのです。

幸い皆さんは、〈IT：情報の仕組み〉と〈L：法学〉の双方を、私たちが知る限り唯一無二のiTLで学ぶことによって、課題解決の能力を修得できます。加えて〈情報の国際文化〉も身に着ければ、AIやメタバースに続いて必ず現れるであろう更なる新興技術が世界を変革させても、時代の変化に対応できる普遍的な考え方を身に着けることもできます。是非ともiTLの教育研究を通じて、様々な新興技術が生む課題を治癒できる有為な人材に育ってください。